

令和２年９月議会

１ 議案第７号に係る質疑概要

（質問）

救急と精神の一体化によるソフト面での準備をどのように進めているか。

（入江委員）

（回答）

身体・精神科合併症救急患者に対する連携強化を円滑に行えるよう両病院と、組織や人事、運営等について協議を進めているところである。

（武内経営管理課長）

（質問）

もう少し具体的にお聞かせいただきたい。例えば、災害医療の強化の部分についてどういった形で進めているのか。

（入江委員）

（回答）

災害面の取り組みについて、災害拠点病院の指定に向け、院内の災害医療・防災部会構成員を中心に、災害医療人材育成のための研修や広域搬送訓練計画案の検討などを進めているところである。

（武内経営管理課長）

（質問）

防災に関わる他機関との協議状況や精神の部分ではいかがか。

（入江委員）

（回答）

消防に関して、消防機関との連携を図るため、本年４月に、防災危機管理部における令和２年度市町村・消防本部防災担当課長会議において、（仮称）千葉県総合救急災害医療センターの整備について情報共有を図ったところである。

（武内経営管理課長）

（質問）

新病院における身体・精神合併症患者の対応について具体的に進める必要があると思う

が、そのあたりはどうか。

(入江委員)

(回答)

両病院の密接な連携が必要となるため、両病院による院内検討を進めているところである。

(武内経営管理課長)

3 諸般の報告等に対する質疑概要

(質問)

県立病院の新型コロナウイルス感染症対応における診療科への影響はどうか。

(入江委員)

(回答)

診療への影響について、4月、5月の患者数が大幅に減少し、現在は前年度並みに戻っている。8月までの実績において、入院で9%、外来で約13%減少している。

(山本副参事兼経営企画戦略室長)

(質問)

県立病院における、新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業の支給状況はどうか。

(入江委員)

(回答)

新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金の交付については、各医療機関が県へ申請を行い、職員等へ給付する慰労金を代理受領した後、各医療機関から職員等個人へ支払いを行うこととなる。

県立病院についても同様の手続きを行う必要があり、現在、各病院において慰労金の給付へ向けた事務を行っているところである。

現在、県への申請が完了した件数は2,262件であり、そのうち、循環器病センターの477件分については交付決定があり入金されたため、10月中に職員等へ支給を行う予定である。

その他の病院についても、交付決定後、順次、支給を行っていくこととなる。

(武内経営管理課長)

(質問)

2, 262 件の中に委託業者分は含まれているのか。

また、循環器病センターの支給金額はいくらか。

(入江委員)

(回答)

循環器病センターには委託業者分は含まれておらず、支給金額は 9, 540 万円である。

なお、他の病院については委託業者分が含まれているところと、含まれていないところがある。

(武内経営管理課長)

(要望)

まだ全ての病院の申請は終わっていないようだが、クラスターが発生した施設等において県立病院の医療従事者が派遣に行った分も含まれていることと思う。

詳細が確定したら教えていただきたい。

診療への影響について、他のコロナ感染受入病院より若干診療の影響が少ないと思うが、財政状況が厳しい中で減収となることについて一定の影響が出ている。引き続き県立病院の医療従事者への様々なバックアップについて対応いただきたい。

(入江委員)

(質問)

来年度の研修医、後期研修レジデントの確保にどのように取り組んでいるのか。

また、各病院における来年の退職予定医師の状況はどうか。人数、診療科についても教えて頂きたい。

(入江委員)

(回答)

研修医、レジデントの確保の取り組みに関しては、各病院と連携し、高度先進医療を担う専門病院の特徴を生かした研修プログラムとするとともに、県ホームページや医師向けの民間運営のホームページへの情報掲載、パンフレットの作成・配布など、PRを図っているところである。

退職予定者についてであるが、定年退職者は5名の予定である。なお、診療科については、個人が特定される懸念があるため、お答えを差し控えていただく。

(武内経営管理課長)

(要望)

代表質問でも県立病院における医師の確保について、将来的な病床機能の維持のために

も、さらにしっかり取り組んでいかなければいけないと問題提起をさせて頂いた。今の答弁では、研修プログラムの充実やPRといったことで、抜本的に若手医師の獲得に繋がるような新しい政策は見えていないように思う。

そして、退職予定者が5名とのことであるが、先般頂いた資料によると、常勤医師の平均年齢が、4月1日時点で43.9歳、年代ごとの人数についても教えて頂いたが、20代が1割もないということで、329人の県立病院の常勤医師の中で、50代、60代が100人近くで、93人である。3分の1がベテランということで、やはり、若手医師を育成して定着してもらうために、今までとは違う形でやって行かないと将来的に厳しいという数字が見えてくる。

県立病院の運営状況については、先ほどの諸般の説明の中で、非常に財政状況が厳しいとすることで、経営改善を進めていくという話であった。もちろん、経費節減ということも当たり前の手法だが、医療収入をあげていくために、医師の確保をして診療科をきちんと機能させていく、休止のところをなくしていくといったことに真剣に取り組んで頂きたい。

代表質問でも申し上げたとおり、県立病院のこれからのあり方を早急に健康福祉部と協議する中で、本当に将来的に、この6病院体制を維持していくのか、医師が集まる病院の形にしていくのか、それを棚上げすることなく、しっかりと前に進めて頂きたい。これを強くお願いしたい。

(入江委員)